

# 済生会 基本原則

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

## 令和4年度 静岡県済生会 経営方針

### 済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限を一元化した業務執行体制による機動的かつ効率的な組織運営の下、変化する経済・社会状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「第2期中期事業計画」に基づき、その着実な推進に努める。

#### 1 済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。国連のSDGsの理念とも合致するこの事業への職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドの確立を目指す。

#### 2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

新型コロナウイルス感染症対応に全力で取り組むとともに、生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要な医療・福祉の密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国の医療・福祉分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する医療・福祉の資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

#### 3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。現下の厳しい経営環境の中で、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

#### 4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

#### 5 良質な人材の確保や、「施薬救療」の精神を实践する「済生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

#### 6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

## 目 次

○ 令和4年度事業報告	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	13
3 静岡済生会総合病院	15
4 静岡済生会療育センター令和	19
5 静岡医療福祉センター成人部	23
6 静岡医療福祉センターライトホーム	25
7 静岡市発達障害者支援センター	27
8 伊豆医療福祉センター	29
9 川奈臨海学園	33
10 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家	37
11 小 鹿 苑	41
12 小鹿なでしこ苑	45
13 静岡市桜の園	48
14 静岡市中心身障害者ケアセンター	52
15 ワーク春日	56
16 静岡済生会看護専門学校	58
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	60

※各記載事業の記号は次のとおりです。

①・・・指定管理による事業

②・・・自治体からの委託事業

## 1 静岡県済生会支部事務局

### 基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

(1) 病院及び各施設と連携した生活困窮者支援事業の積極的推進

目標数：1,984名

(2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討

- ・済生会地域包括ケア連携士を中心とした相談会の定期開催
- ・施設間の連携及び社会資源との連携について推進

**結果** (1) 令和4年度計画に対しての実績 2,281名 (1,642名) 内訳：ホームレス0名(1名)、DV被害者0名(2名)、高齢者及び障害者1,334名(1,148名)、刑余者14名(4名)、外国人353名(239名)、母子児童36名(24名)、その他544名(224名)  
(詳細は、7ページから12ページ参照)

(2) 済生会地域包括ケア連携士を中心にフリーダイヤルによる「医療・福祉なんでも相談窓口」の設置、「医療・福祉なんでも相談会」の開催及び子ども食堂を開催した。

#### 目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

(1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援

- ・川奈臨海学園の小規模児童養護施設の追加設置に対する支援他

(2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化

- ・体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
- ・人事評価制度の運用継続

(3) 適切な会計経理処理に対する支援の強化

- ・公認会計士による指導・会計経理担当職員研修会の開催

**結果** (1) 川奈臨海学園・・・令和5年2月完成、令和5年3月27日開所式  
静岡市桜の園・・・台風15号による被災状況等支部監事による実地監査を実施した。

静岡医療福祉センター検討委員会の設置

(2) 階層別研修は、リモートも含めての開催となった。(詳細は3ページ記載)

福祉施設での人事評価2回の実施と、評価者に対する集合研修を実施した。

(3) 会計経理担当者研修は、新型コロナウイルスの影響で開催中止とした。

#### 目標3 医療・福祉の人材確保

- ・実習指導者等との連携を図り、魅力ある法人の情報を発信し、外国人も含めた優秀な人材確保に努める。

**結果** コロナ禍で少数の実習受け入れに留まったことから、担当者打ち合わせ会は開催しなかったが、各施設 SNS 等を活用し情報発信に努めた。

4年度は、奨学金を貸与した介護福祉専門校(石川県)に通学する2名(インドネ

シア・ベトナム)と小鹿なでしこ苑でアルバイトをする介護福祉専門校(静岡市)に通学する2名(インドネシア)の計4名を採用。また、5年度に向けても2名の外国人介護士(インドネシア・ベトナム)の採用となった。

**目標4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築**

- (1) 病院及び各施設の情報発信の促進
- (2) 済生会地域包括ケア連携士を中心とした施設間連携の取組や地域住民との連携・交流事業の情報発信

目標：新聞等マスコミへの露出

**結果** (1) 複数の施設でインスタグラム・LINE等SNSを活用し、情報発信に努めた。  
 (2) 法人名記載の数種類のバナー(のぼり)、椅子・机カバーを作成し、広報材料として活用した。

**(1) 支部事務局運営事業**

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

**ア 支部理事会の開催・・・6回開催(6回) ※議案一覧は5~6ページに掲載**

	開催日	場所
第1回	令和4年 5月 11日	グランディエール ブケトーカイ
第2回	令和4年 8月 3日	静岡済生会総合病院
第3回	令和4年 9月 28日	グランディエール ブケトーカイ
第4回	令和4年 11月 22日	〃
第5回	令和5年 1月 27日	〃
第6回	令和3年 3月 15日	〃

**イ 諸会議の開催**

会議名称	回
・支部事務局会議	17 (21)
・支部執行会議	6 (6)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・静岡県済生会地域包括ケア委員会	5(5)
・施設連携懇話会	0(1)
・静岡医療福祉センター検討委員会 (入所系施設の再配置等今後の在り方を検討する会として新設) ※従来の「静岡済生会療育センター令和・伊豆医療福祉センター連携交流会議」は未開催となったが、新設の委員会の中で両施設間の人的交流等を議題とした。	2(0)

**ウ 済生会本部等との連絡調整**

会議名称	回
・支部長会議(本部)	2(2)
・済生会関東ブロック会議(4年度は静岡県支部が担当。コロナウイルス感染状況からテレビ会議へ変更しての開催)	1(1)
・全国済生会支部事務責任者会議(愛知県支部)	集合開催
・済生会障がい者就労支援協議会(北海道支部)	次年度担当支部として視察

エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・1回(0回)

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内容
企画課 第1回	令和4年6月24日	「業務新人職員研修」 ・ 済生会について ・ 無料低額診療について 10施設22名(7施設10名)
企画課 第2回	令和4年8月26日	「相談業務職員研修」 ・ 「静岡県済生会相談支援事業担当者一 覧」作成報告 ・ 無料低額診療事業となでしこプラン について 12施設23名(10施設14名)
企画課 第3回	令和4年10月21日	「業務中堅職員研修」 ・ 虐待防止の推進 ・ リスクマネジメント 9施設16名(10施設16名)
企画課 第4回	令和4年12月16日	「業務主査・主任職員研修」 ・ 地域包括ケアシステム ・ 重層的支援体制について 8施設16名(9施設10名)
企画課 第5回	令和5年2月24日	「業務副主任職員研修」 ・ 権利擁護 ・ 虐待防止について 12施設23名(10施設12名)
総務管理課	令和4年10月3日	「人事評価者研修」 ・ 講義と演習 8施設16名

その他

- ・ 財務課主催研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。
- ・ 実習担当職員打ち合わせ会は新型コロナウイルス感染症の影響で実習生受け入れ困難な状況が続き、中止とした。

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより」年2回の発行

キ 法人の管理運営に係る業務(会計事務所等による会計監査及び監事監査)  
対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人 による会計監査	令和4年4月19日、20日、 21日、22日	全施設
監事監査	令和4年4月27日	全施設

・行政機関(静岡県、静岡市)による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業(なでしこプラン)を病院、各施設とともに推進、展開した(※各施設別詳細については、7~12ページに掲載)。

### (3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上昇を図るため、各種給付を実施、実績は、次のとおりであった。

事業名	令和4年度		令和3年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付金	25	119,838,160	31	105,248,738
医療共済給付金	5,719	39,359,153	5,716	40,684,104
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

### (4) 施設等支援事業

#### ア 川奈臨海学園

施設と連携しながら円滑な施設整備を推進した。

(新園舎開所式：令和5年3月27日)

#### イ 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

静岡市桜の園・・・台風15号による被災状況等支部監事による実地監査の実施。指定管理期間後における現地での事業継続は困難と判断し、静岡市担当課に対して申し出て今後の対応について協議を行った(次年度継続する)。

静岡医療福祉センター検討委員会の設置・・・静岡医療福祉センター入居施設の方向性及び同センター全体の今後の在り方に関して必要な検討を行う会として設置した。

#### ウ 医療・福祉連携促進の支援

- (ア) 済生会地域包括ケア連携士を中心に、法人内自主勉強会、地域防災訓練への参加と協力及びフリーダイヤルによる相談窓口の設置。調剤併設型ドラッグストアを会場として「医療・福祉なんでも相談会」の開催と、令和4年12月からはNPO法人静岡市子ども食堂ネットワークと協働して「子ども食堂」を毎月開催した。
- (イ) 静岡済生会総合病院を会場とし、総合病院職員の協力の下、新型コロナウイルス感染症に係る職域接種を5月に実施した。

## 2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染が拡大するなかで、おおむね施設訪問による監査が実施された。

### (1) 社会福祉法人<sup>静岡県</sup>済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施

#### ・定期監査・

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和4年9月6日
なでしこ保育園	令和4年12月7日
小鹿苑	令和5年1月19日
小鹿なでしこ苑	令和5年1月20日
静岡医療福祉センター成人部	令和5年1月24日
静岡済生会療育センター令和	令和5年1月27日
静岡市桜の園	令和5年1月30日

なお、済生会本部の定めた業務監査チェックリストによる書面調査を全施設・事業所を対象に実施した。

#### ・決算監査・

施設名	監査日
会計事務所による会計監査	令和4年4月19日、20日、21日、22日
監事監査	令和4年4月27日

### (2) 行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会

#### ・静岡県財政的援助団体監査

施設名	監査日	実施機関
支部静岡県済生会	令和4年9月30日	静岡県監査委員事務局

#### ・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
なでしこ保育園	令和4年12月21日	静岡市
小鹿苑	令和5年1月25日	静岡市
小鹿なでしこ苑	令和5年1月25日	静岡市
静岡済生会療育センター令和	令和5年1月31日	静岡市

静岡医療福祉センター成人部	令和5年1月31日	静岡市
静岡市桜の園	令和5年2月6日	静岡市
川奈臨海学園	令和5年2月8日	静岡県

・静岡県・静岡市による実地指導

施設名	監査日	実施機関
伊豆医療福祉センター	令和5年1月24日	静岡県
小鹿苑	令和5年1月25日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	令和5年1月31日	静岡市
静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	令和5年1月31日	静岡市
静岡市桜の園 城北館	令和5年2月7日	静岡市

・静岡市保健所立入検査

施設名	検査日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和4年11月16日	静岡市保健所

(3) 支部監事による施設実地監査への立会

施設名	監査日
静岡市桜の園	令和4年11月14日

(4) 法人本部内部監査への立会

施設名	監査日	実施機関
川奈臨海学園	令和4年11月30日	済生会本部監査指導室
伊豆医療福祉センター	令和4年11月30日	済生会本部監査指導室
ワーク春日	令和4年12月1日	済生会本部監査指導室
静岡市桜の園	令和4年12月1日	済生会本部監査指導室
静岡済生会療育センター令和	令和4年12月2日	済生会本部監査指導室
静岡医療福祉センターライトホーム	令和4年12月2日	済生会本部監査指導室
静岡医療福祉センター成人部	令和4年12月2日	済生会本部監査指導室
小鹿苑	令和4年12月14日	済生会本部監査指導室
小鹿なでしこ苑	令和4年12月14日	済生会本部監査指導室
訪問看護ステーションおしか	令和4年12月15日	済生会本部監査指導室
静岡済生会総合病院	令和4年12月15日	済生会本部監査指導室
静岡済生会看護専門学校	令和4年12月16日	済生会本部監査指導室
静岡県支部事務局	令和4年12月16日	済生会本部監査指導室
静岡済生会病院 (無料低額診療事業)	令和5年2月22日	済生会本部社会福祉・ 地域包括ケア課



### 3 静岡済生会総合病院

#### 基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

#### 令和4年度目標及び結果

##### 目標1 安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・コロナ禍に対応した安心、安全な医療の提供に努める。
- ・業務の標準化と整理整頓を進め、顧客サービスの向上に努める。
- ・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果 新型コロナ対策と急性期医療の両立に努めた。

##### 目標2 患者さん・連携医へのサービス向上

- ・「治す医療」と「支える医療」の充実に努める。
- ・プライバシーの配慮、施設設備の充実、接遇の質の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
- ・無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・広報活動の充実、強化に努める。

結果 大型医療機器（血管造影装置の増設、ダヴィンチ導入）の運用を開始した。次年度へ向けての大型医療機器（MRI）の整備を計画した。

広報活動全般が再開し、市民公開講座、済生会フェア（講演会・web）を実施したSNSを活用し、随時情報発信を行った。

##### 目標3 優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実に努める。

結果 次年度へ向けての医師確保に努め、医師増員を実現した。

##### 目標4 働きやすい環境

- ・専門性を生かした業務を行える体制を整備
- ・働き方改革への対応。人事、給与等システムの活用を図る。
- ・障がい者雇用率2.5%以上を目指す。
- ・感染対策に一層の強化を図る。

結果 働き方改革を推進した。  
障がい者雇用率2.5%を達成した。

##### 目標5 安定した経営

- ・新入院数及び入院単価の向上に努める。
- ・病床稼働率の向上に努める。

結果 経営指標は前年度比で回復傾向。平均在院日数の短縮、新たな施設基準取得等により入院単価の大幅な増加となった一方、新入院数の伸びが目標に届かず、病床稼働率は減少した。また、コロナ関連の多額の補助金を受けた。

静岡県中部地域の中核病院（昭和23年6月1日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療セン

ター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等を模索したものの、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られ、その他の新たな取組を進めることは困難であった。

### (1) 病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7対1看護基準の維持により、安心・安全な看護体制を維持した。新入院数は前年度よりも回復したが、在院日数の短縮により一日平均入院患者数は減少した。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
許可病床数	521 床	521 床	521 床
一日平均入院患者数	435 名	380 名	409 名
一日平均外来患者数	950 名	930 名	937 名

※静岡済生会療育センター令和除く

### (2) 救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム(DMAT)の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
救急患者数	18,000 名	14035 名	13,534 名
うち入院患者数	4,300 名	3,866 名	3,847 名

### (3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
受入研修医数	23 名	24 名	21 名

### (4) 医師・看護師確保対策事業(院内保育所)

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、なでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
事業所内保育事業(共同枠)	90 名	53 名/日	51 名/日
〃 (地域枠)	20 名	14 名/日	16 名/日

病児保育事業	延べ 10名	延べ 1名	延べ 1名
放課後児童健全育成事業	13名	13名/日	14名/日

#### (5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
医療相談	9,500件	9,848件	9,865件
心理相談	4,800件	4,438件	4,497件

#### (6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
実施率	10.0%	6.9%	7.6%
対象者延べ数	40,800名	27,384名	31,024名

#### (7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者：

刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
対象者延べ数	1,700名	2,068名	1,545名

#### (8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に对应するため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。新規契約を締結したため、院内健診者が増加した。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
人間ドック	1,900名	1,919名	1,718名
生活習慣病予防健診等	14,200名	13,679名	13,805名

#### (9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを予定していたが、

コロナ禍により開催を小規模となった。病院広報については、済生会フェア、市民公開講座の開催を再開した。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
市民公開講座	2回	2回	0回
職場体験(中学生参加人数)	40名	3名	0名
高校生ナーススクール	40名	0名	0名

## 4 静岡済生会療育センター令和

### 基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院（入所）児（者）の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

**結果** 一日平均入院（入所）児（者）数 40.1名  
看護師1名 支援員4名を採用した。

#### 目標2 適切な支援の提供

- ・年令および特性等に応じた支援を計画する。
- ・短期入所による地域支援を行う。
- ・第三者評価事業の受審

**結果** 児童、成人それぞれの日中活動（施設内での活動）を計画的に行った。  
短期入所は病棟内の感染予防のため受け入れを中止している。  
第三者評価を静岡県社会福祉士会に依頼し受審した。結果は静岡県のホームページに公表済み。改善を求められる点については施設全体で取り組んでいく。

#### 目標3 安全な医療・生活の場の提供

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策、虐待防止に取り組む。
- ・BCPの策定を行う。

**結果** 新型コロナウイルス感染症対策を継続した。  
虐待防止・身体拘束・食中毒の研修実施、定期的に委員会を開催した。  
BCPについては実態に合うように、引き続き内容の検討を行う。

### (1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員60名）

#### 障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員60名）

令和4年10月12日に29年ぶりに施設長が交代し、森山施設長から石山施設長となった。施設長の交代により新たな取り組みとして入所児（者）の家族との関係を強化するために懇談会・給食試食会の実施、広報活動として広報誌の発行、インスタグラムの開設を行った。

入所児（者）及び通院児に対し、リハビリテーション・医療ケア・教育・施設内保育・生活指導等の療育及び療養上の支援を行った。従来の肢体不自由児療育に加え、発達障害児の診療を行うなど、利用者からの幅広いニーズに応えた。

入所児（者）数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少が続いている。令和3年度は入所児者数が5年ぶりに前年度比で増加となったが今年度は2.1名の減少となった。

今後の施設の在り方は、当センターを含めた静岡医療福祉センター検討委員会で検討している。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	48名	40.1名	42.2名
一日平均外来患者数	140名	124.1名	133.2名

**疾病別人員** (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	40名	54.8%
進行性筋・神経疾患	3名	4.1%
二分脊椎	4名	5.5%
その他	26名	35.6%
計	73名	100.0%

**月別入所者数**

	初日在籍者数	延べ人数
4年 4月	41名	1,208名
5月	41名	1,271名
6月	42名	1,253名
7月	42名	1,227名
8月	43名	1,339名
9月	46名	1,199名
10月	40名	1,239名
11月	41名	1,221名
12月	41名	1,233名
5年 1月	37名	1,198名
2月	38名	1,056名
3月	40名	1,205名
合計	492名	14,649名
月平均	41名	1,220.8名
一日平均		40.1名

(2) 障害福祉サービス事業(短期入所)(二種事業)

在宅の障害児(者)及びその家族の福祉の向上、支援を目的としているが、昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れができなかった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間利用延人数	200名	0名	0名
一日平均利用人数	0.5名	0名	0名

(3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業) 委

ア 静岡市障害者等相談支援事業 委

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児(者)及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施した。

## イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）㊦

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
地域生活の支援・助言	3,000件	3,111件	3,568件

## ウ 障害児等療育支援事業㊦

### (7) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等

- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
相談等延件数	75名	34名	26名

### (イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
相談指導延件数	280名	20名	60名

### (ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
支援回数	13件	0件	0件

## エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

- ・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
利用計画書作成件数	130件	136件	144件

## (4) 日中一時支援事業（公益事業）㊦

医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援を目的としているが、新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れができなかった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間利用延人数	30名	0名	0名
一日平均利用人数	0.1名	0名	0名

## (5) その他の事業（研修室・会議室等運営事業）

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を新型コロナウイルス感染症の流行状況を確認し制限する時期もあったが、感染対策を行った上で貸し出しを行った。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
会議等利用人数	1,500名	268名	10名

イ 宿泊施設利用状況

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
宿泊施設利用人数	15名	0名	0名

(6) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

施設利用者・家族を中心に無料の相談会を療育セミナー開催に合わせて行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で開催を中止した。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
受講者数	100名	0名	0名



## 5 静岡医療福祉センター成人部

### 基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める

利用者の意向、障害の特性その他の事情を踏まえた個別支援計画に基づき、常に利用者の立場に立って適切かつ効果的なサービスを提供する。

**結果** 研修等への積極的な参加による職員の資質向上や家族・後見人・相談事業所等との連携強化を図った。

また、入所者の高齢化・重度化に伴う勤務体制の見直しを行い、早番制度導入（3年度は試行、4年度から正式運用）を行ったほか、支援区分に対応した職員配置が行えるよう静岡県済生会職員定数を一部改正した。また、土・日祝日における看護体制の整備を図る（現在、日曜日のみ）など、利用者に対する支援の充実に努めた。

#### 目標2 地域との交流を深める

施設外の催し・大会等積極的に参加し、利用者の視野を広げると共に、地域に施設を理解してもらう。そして地域防災に参加協力し、地域との協力体制構築を目指す。

**結果** 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い様々な行事が中止になったが、西豊田学区における地域福祉懇談会や防災訓練に参加したほか、静岡県済生会地域包括ケア委員会が行う「なんでも相談会」、「こども食堂」に参加するなど、地域との交流を深めた。

#### 目標3 安定した経営を目指す

相談支援事業所等と連携し、利用者の開拓に努め、入所者を確保する。

（目標）年間 延べ20,400人

**結果** 入所者の高齢化・重度化による病気等での入院増加や退所者の増加に伴い、延べ利用者数、一日平均在所者数ともに昨年に比べ減少した。

### （1）障害者支援施設（一種事業）「施設入所支援 60名、生活介護 60名」

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

#### ・施設入所支援

・定員	60名 (60名)
・年間入所者数	2名 (6名)
・年間退所者数	7名 (8名)
・年間延在所者数	17,973名 (19,366名)
・一日平均在所者数	(目標 56名) 49.2名 (53.1名)

疾病別人員

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中	25	51.0
その他の脳原性疾患	8	16.3
脳外傷	2	4.1
その他	14	28.6
計	49	100.0

月別生活介護・入所者数

月	入所人数	生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計		利用人数	延べ利用数
		利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数		
4	53	53	1,097	6	45	59	1,142	53	1,565
5	53	53	1,095	6	42	59	1,137	53	1,545
6	52	50	1,100	6	49	56	1,149	50	1,500
7	50	50	1,033	6	45	56	1,078	50	1,527
8	50	50	1,113	6	45	56	1,158	50	1,499
9	50	49	1,073	6	44	55	1,117	49	1,463
10	49	49	1,018	6	46	55	1,064	49	1,501
11	51	51	1,063	6	45	57	1,108	51	1,447
12	51	51	1,099	2	2	53	1,101	51	1,548
1	51	50	1,087	6	43	56	1,130	50	1,532
2	50	50	979	6	46	56	1,025	50	1,370
3	50	48	1,094	6	51	54	1,145	48	1,476
計			12,851		503		13,354		17,973

・生活介護

- ・定員生活介護 60名(60名)
- ・開所日数 261日(261日)
- ・年間延利用者数 13,354名(14,346名)
- ・一日平均在所者数 51.16名(54.96名)

(2) 福祉サービス事業(短期入所)(二種事業)(空床)

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間利用延人数	210名	217名	342名
一日平均利用人数	0.6名	0.6名	0.9名

## 6 静岡医療福祉センターライトホーム

### 基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保
- ・利用客の確保 目標 500人
- ・支出の見直し

- 結果**
- ・利用者（施術者）は年度当初の1名から4名となり、すべての曜日に利用者（施術者）がいる体制となった。
  - ・利用客 460人
  - ・収入に見合う支出とするため共通経費の按分率の見直し等を行った。

#### 目標2 施設の広報活動

- ・感染対策を実施した広報活動を行う。
- ・済生会フェアへの参加
- ・マッサージ無料奉仕の実施
- ・近隣町内会への広報活動の実施

- 結果**
- ・済生会フェアでのマッサージ無料体験  
済生会フェア web 開催のため実施できず。
  - ・マッサージ無料奉仕  
「2022 ビジョンサポート機器展 IN 沼津」へマッサージ体験ブースを出展  
(11月27日)
  - ・静岡県済生会地域包括ケア委員会「何でも相談会」においてマッサージ無料体験を実施、ウエルシア高松店ウエルカフェスペースで実施した（1月18日、3月15日）。
  - ・近隣町内会への広報活動の実施 → 中止
  - ・昨年度に続きコロナウイルス流行により予定していたイベントが中止となったが、静岡済生会総合病院職員へグループウェア(施設内情報システム)を通じて施設案内を実施した。

### (1) 利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均通所者数	3名	0.64名	0.95名

### 疾病別人員（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	0名	0%
中途視覚障害者	4名	100%
計	4名	100%

月別在所者数

年月	通所者延人数
4年 4月	10名
5月	10名
6月	13名
7月	14名
8月	19名
9月	23名
10月	23名
11月	27名
12月	24名
5年 1月	24名
2月	25名
3月	27名
合計	149名
月平均	12.4名
一日平均	0.64名

(年間通所日数 233日)

(2) その他

\* ライトホーム研修会の実施

開催日 : 令和4年7月14日(木) 13時30分~14時30分

目的 : 事業所の見学や実習を通して適性或職業生活を考える機会とする

内容 : ライトホームの概要、業務内容の説明、実習を通して技術の向上  
及び施術者の心構えを学ぶ

対象者 : 静岡視覚特別支援学校保健医療科3年生2名・教員3名

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

## 7 静岡市発達障害者支援センター

### 基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

### 令和4年度目標及び結果

**目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う**

**結果** 相談支援においては、相談者や関係機関と支援や情報を共有するために、令和4年度も引き続き電話相談のやり取りを行うことを意識した結果、件数が増加した。発達支援については、おもに支援体制サポート強化学業や※1コンサルテーション事業において、特に園・小・中学校および高等学校に訪問をした際に、特定の対象者ではなくクラス全員の様子と助言を求められることが増えたため、発達支援の件数が目標を上回った。就労支援においては、成人期の相談ニーズも高くなっており目標を上回った。一方で就労支援においては相談時間が当センターで基本の1時間を大幅に越えて2時間にわたるケースがあるなど、相談内容についてはより困難化をしており、今後も重点的な支援の課題として取り組みたい。

※1年4回の支援体制サポート事業を超えてさらにバックアップが必要となる場合、訪問して支援する事業

**目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化学業について、支援体制サポート強化学業において、巡回相談を実施する**

※2ペアレントメンター・※3地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

※2自らも発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親

※3養成講座を受けた専門機関等の職員

**結果** ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、(養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、)引き続き活動を継続できる体制づくりを実施した。

支援体制サポート強化学業については、今年度も園・小中学校に加えて、高等学校および就労移行支援事業所への訪問を、昨年度に引き続き実施した。今後も乳幼児期から成人期まで途切れのない支援がつながるよう事業を成人期まで拡大していくことを課題とする。

**目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う**

**結果** 令和3年度に引き続き一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会をZoomによるWeb開催により実施した。また視聴期間を決めてWebで視聴できる形式(期間限定のWeb配信、常設のWeb研修、ライブ配信した研修の期間限定見逃し配信)で実施した。そのためWebによる視聴回数も参加延人数とし

ているため、大幅な増加があった。ペアレント・プログラムなど一部の研修会については、集合形式と Web 形式を組み合わせたハイブリット型で実施した。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

## (1) 発達障害者支援センター事業<sup>(委)</sup>

### ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延相談件数	900 件	1,280 件	1,177 件

### イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延相談件数	1,000 件	1,899 件	1,508 件

### ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延相談件数	200 件	319 件	219 件

### エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修（集合形式と Web 形式による開催）

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間開催回数 (参加延人数)	70 回 (2,500 名)	160 回 (6,729 名)	127 回 (3,345 名)

## (2) 家族支援・支援体制サポート強化事業<sup>(委)</sup>

### ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延ケース数	500 件	1,457 件	1,306 件
年間延訪問数	184 回	222 回	166 回

### イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間開催回数 (参加延べ人数)	6 回 (300 名)	6 回 (282 名)	6 回 (189 名)

### ウ ペアレントメンターの活用

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間実施回数 (ペアレントメンター延べ人数)	50 回 (145 名)	74 回 (193 名)	71 回 (186 名)

## 8 伊豆医療福祉センター

### 基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組めます。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標

#### 1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

目標：入所者数 36 名

#### 2 入所利用者の満足度の向上

目標：病棟での様々な行事の充実

#### 3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

目標：利用者数 生活介護 6 名/日 児童発達支援 5 名/日 短期入所等 5 名/日

#### 4 運営システムの見直しによる施設機能の充実と業務の効率化

目標：オンライン診療と対面診療の併用、電子カルテの運用

#### 結果

- 令和4年度の入所者数は、新規の入退所はなく、年度末において児童が13名、成人が23名の計36名であった。
- 病棟での行事については、コロナ禍ではあるが、夏祭やクリスマス会などを実施した。また、制限を設けながらも可能な限り、家族に行事参加や面会をしていただいた。
- 外来患者については、土曜日を休診としたが、年間延べ患者数は微増した。また、いわゆる発達障害の患者は増加しており、診療枠を増やしているが、新患の予約は3か月から6か月先でないとい入れられないような状況となっている。
- 在宅支援福祉関連サービスでは、新型コロナウイルス感染症防止対策による利用制限により、生活介護と児童発達支援の延べ利用者数が、前年度に比較して減少した。
- 運営システムの見直しについては、オンライン診療と対面診療の併用の実施に必要な準備を行うとともに、電子カルテの円滑な運用により業務の効率化を図った。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児（者）への入院診療とともに、外来診療として、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児（者）歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児（者）の総合的な療育支援の機能を担っている。

#### (1) 医療型障害児入所施設（一種事業）・障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
1日平均在所児（者）数	36名	35.7名	35.0名
1日平均外来患者数	96名	105.3名	88.3名

( 入 所 )

( 外 来 )

- ・定 員 43 名 ( 43 名)
- ・年間延べ患者数 25,378 名 (25,346 名)
- ・在所児(者)数 36 名 ( 36 名)
- ・年間診療日数 241 日 ( 287 日)
- ・年間延べ在所児童(者)数 13,027 名 (12,770 名)
- ・一日平均患者数 105.3 名 ( 88.3 名)
- ・一日平均在所児童(者)数 35.7 名 (35.0 名)

## (2) 障害福祉サービス事業 (生活介護) (二種事業)

## (3) 障害児通所支援事業 (児童発達支援) (二種事業)

(2) 障害福祉サービス事業	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
1日平均利用者数	6名	5.4名	5.3名

- ・定 員 6名 ( 5名)
- ・登録者数 19名 ( 21名)
- ・年間延通所者数 1,135名 (1,209名)
- ・一日平均通所者数 5.4名 ( 5.3名)
- 210日 ( 226日)

(3) 障害児通所支援事業	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
1日平均利用者数	5名	2.8名	3.2名

- ・定 員 5名 ( 5名)
- ・登録児童数 10名 ( 8名)
- ・年間延通所児数 561名 ( 628名)
- ・一日平均通所児数 2.8名 ( 3.2名)
- ・年間通園日数 197日 ( 193日)

## (4) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業)

## (5) 日中一時支援事業 (地域生活支援) (公益事業) 委

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
1日平均利用児(者)数	5名	3.4名	3.3名

- ・年間延べ利用者数 1,174名 (1,110名)
- ・一日平均利用児(者)数 3.4名 ( 3.3名)
- ・年間実施日数 338日 ( 331日)

※短期入所・日中一時支援の合計

## (6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業 (二種事業) 委

## ア 特定相談支援事業・障害児相談支援事業

相談支援専門員2名を配置し、利用計画作成のための相談に対応した。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
計画相談等(モニタリング含む)	450回	319回	305回



## イ 静岡県在宅重症心身障害児（者）療育支援事業 ㊦

リハビリ職員による訪問・外来相談を中心に、重症心身障害児（者）を対象として、地域での療育や生活に関する相談・支援を実施した。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
在宅支援訪問療育等指導事業	25回	28回	13回
在宅支援外来療育等指導事業	50回	54回	28回
施設支援一般指導事業	5回	1回	0回

## ウ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業 ㊦

自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害等があるいわゆる発達障害児（者）に対し、それぞれのライフステージに応じた生活を支援するため、地域での医療や福祉サービス等の情報提供を行うとともに、学校・保護者を含む関係機関とのケア会議に参加した。

## エ 一般相談支援等 ㊦

身近な地域での各種福祉サービスの利用などに関する、電話等を含めた様々な相談に応じるとともに、障害児（者）が充実して暮らせる地域づくりを目指し、行政機関や、自立支援協議会との連携を図った。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一般相談等 (地域生活支援事業含む)	800回	749回	664回

## オ 地域連携支援事業

静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業の廃止に伴い、イの対象外の障がいを持つ方に対し、当施設の独自事業として、施設・保育所・学校（特別支援学校を含む）等へリハビリ等の専門職を派遣し、専門的な技術指導や助言を行った。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
地域連携支援事業	50回	43回	44回

## (7) その他の事業（なでしこプラン）無料健康相談

施設の一般公開に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるよう、他施設や外部団体との連携強化を図った

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間利用者数	10名	9名	10名

#### (8) 生活に根差したリハビリテーションの提供

重症心身障害児（者）だけでなく、発達障害等の患者が安心して地域で生活できることを目指し、リハビリテーションを提供するとともに、個人の機能・能力の適正評価、多職種との連携、生活を支える人と情報の共有化を図った。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均外来リハ件数	80名	72名	一名

#### (9) オンライン診療の実施準備

外来患者や職員の感染防止のみならず、静岡県東部という距離的にも時間的にも遠い分散された地域の特性の中、通院の負担、特に増加する共働き世帯の制約を軽減するために、オンライン診療と対面診療を併用実施できるよう、必要な機器の選定作業を行った。

#### (10) 電子カルテの運用

電子カルテが円滑に運用され、医療情報の記載・表示の簡素化、各科（課）の情報の連携強化、医事・会計業務の効率化が図られたことにより、業務負担が軽減されるとともに、患者・利用者へのサービスが向上した。

## 9 川奈臨海学園

### 基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

### 令和4年度目標及び結果

#### <児童養護施設>

#### 目標1 県の社会的養育推進計画に合わせた取り組み

- (1) 1ユニット定員6名での生活支援を継続していく。より家庭に近い環境で子どもたちの支援をする。小規模へ移行2年目となり、児童及び職員ともに「家庭的」を意識して支援を行う。
- (2) 児童福祉法の理念に基づく県の社会的養育推進計画に沿って、家庭的な養育のための運営を行う。児童養護施設の高機能化・多機能化について、検討し進めていく。2つめの地域小規模児童養護施設開設に向けて取り組む。

**結果** 小規模へ移行し2年目として、家庭的で小規模なユニット形態の生活となり児童個々の課題やニーズに取り組むことができるようになった。

令和5年度に新たに伊東市八幡野地区での地域小規模児童養護施設の開所に向けて、協力事業者のもと地域小規模児童養護施設「あおば」が完成した。

#### 目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1) 本体施設 36名、地域小規模児童養護施設6名  
小規模グループケア施設において、自立支援計画票に基づき児童一人ひとりに合った生活支援を行う。
- (2) 高校卒業後を見据え、自立に向けて支援する。  
目標：該当児童1名
- (3) 家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。  
目標：2家庭

**結果** 関係機関と協議し入所児童ごとに自立支援計画を立てたうえで支援を行った。

令和4年度措置対象入所児童は36名（入所理由別内訳）

- ・虐待による入所 26名 72.2%
- ・養護による入所 10名 27.8%

本体施設の定員36名、地域小規模児童養護施設「わかな」の定員6名に対し、年度内の新規入所者は6名、年度内の退所者は2名で内訳は家庭復帰が2名、1名は高校編入、1名は大学へ進学した。

#### 目標3 里親支援への取り組み

- (1) 里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

## 結果

- (1) 静岡県から養育里親認定研修事業の委託を受け里親施設研修を実施した。
- (2) 施設と同じく社会的養護を担う里親家庭との連携を強化するため、東部・賀茂地区の里親会に参加した。また里親家庭の子育て相談や一時的休息を図ることを目的に「川奈サロン」の開催や地域別サロンに参加した。
- (3) 里親相談会を立ち上げ、誰でも気軽に立ち寄ってもらいたいという思いから、会場を伊東市内のショッピングセンター内とし、6月から月に1回のペースで開催し、里親制度を分かりやすく説明する展示や個別相談などを行った。

	実績	
(1) 養育里親認定研修	8組 16名	
(2) 里親の開拓や資質向上のサポート	東部・賀茂里親会	5回
	サロンの開催・参加	13回
(3) 里親相談会	来場者	77名
	相談件数	19回

## <病児保育>

### 目標4 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市の委託を受け指定医療機関と連携し、病児に対して疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関と連携し、より多くの市民へ事業の周知を図り、利用者数の増加に繋げる。周知方法や、より利用しやすい方法を整理し一つずつ取り組む。

## 結果

- (1) 伊東市内の小児診療を行う医療機関5機関に協力を仰ぎ、伊東市内地区ごと利用者の利用しやすいようにした。
- (2) スマートフォンやSNSを活用した利用者への情報提供や予約等の連絡方法の幅を広げた。また利用する保護者が安心して預けられるよう日中の様子などをSNSで定時報告する取り組みも始めた。  
新型コロナウイルス感染が続き、それに伴う保護者の働き方の変化に関する影響もありつつ利用者数は昨年より増えた。しかし目標数には達しなかった。

### 目標5 子育て短期支援事業の推進

複数の市町へ事業受託ができる環境を整え、児童を養育することが一時的に困難な家庭に対し緊急一時的に保護、養育を行い、児童及び家庭の福祉の向上を図る。

- 結果** 伊東市から子育て短期支援事業を受託し、保護者の出産・入院により支援が必要な家庭の児童を2名×7日間、家族間調整のレスパイトとして1名1日受入れた。近隣市町の熱海市からの委託については引き続き協議している。

(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）

令和4年度月別在所児童数（本体と地域小規模児童養護施設合算） (名)

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和4年4月	30	900	10月	33	1,023
5月	30	930	11月	35	1,050
6月	30	948	12月	35	1,085
7月	32	992	令和5年1月	35	1,085
8月	33	1,023	3月	35	980
9月	33	1,008	3月	35	1,081
			計	396	12,105
			( ) は前年度		(11,867)
			月 平 均	33.0	1,008.8
			一日平均		33.2

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
本体定員	36名	36名	36名
地域小規模児童養護施設わかな定員	6名	6名	6名
一日平均在所児童数	36名	33.2名	26.6名

(2) 病児保育事業（二種事業）(委)

令和4年度の利用実績

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間利用延べ児童数	400名	368名	261名
月平均児童数	34名	30.7名	21.7名

(3) 子育て短期支援事業（二種事業）(委)

令和4年度の利用実績

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延べ利用児数	20名	15名	16名

(4) その他の事業（なでしこプラン）

ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行った。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間受け入れ回数	2回	1回	0回
年間受け入れ延べ人数	16名	11名	0名

イ 退所児童の健康診断補助事業

施設の自立支援担当職員が中心となり施設退所者のアフターケアを継続的に行っているが、生活困窮のため健康診断等を受けていない医療的ケアが必要な退所者はいない

かった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

#### ウ 地域支援事業の推進

伊東市小室地域において住民が安心して暮らせる地域作りに向け、住民と関係機関が連携しさまざまな地域課題を共有し助け合う社会を育んでいく場の設置検討を目的とした小室地域ふるさと協議会会議に参加した。児童養護施設の特性を生かした児童虐待防止、子育て支援についても協議した。

検討内容	会議方法	回数
前回の内容確認、作業部会について 等	WEB 会議	1回

## 10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家

### 基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 通園支援事業の充実

- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自立と社会適応を支援する。
- ・支援の多様化に伴い、希望者には幼稚園・保育園・事業所等との並行通園を実施し、各関係機関と連携を取りながらこどもの成長・発達を促していく。

#### 結果

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、令和4年度も保護者参加で全体での行事は中止し、クラス毎での実施に変更した。コロナ感染第7波・第8波の時期が最も罹患が多かったが、年間を通して通園児の約半数が罹患し、欠席したり、家族の罹患により濃厚接触者対象になった場合は自宅待機をお願いしたりする事が多く、前年度より利用率が減少してしまった。
- ・幼稚園・保育園との並行通園や、他事業所との併用を希望する利用者同士を組み合わせ利用してもらおう事で、保護者のニーズに応え、利用率の向上を目指した。また、各関係機関とは電話やリモート等で連携を取り会い、移行支援については、保護者向けに説明会を3回実施し、移行先には情報提供書だけでなく訪問や電話等で情報共有の場を設け、より細やかに連携を図るよう努めた。

#### 目標2 職員の資質・意識向上

- ・第三者評価受審結果をもとに、具体的な問題点を把握し、サービスの質の向上に結び付けていく。引き続き、職員全員にいこいの家の運営方針等を周知徹底させ、より良い支援に繋がるよう意識を高めていく。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン研修を取り入れ、研修計画に基づき、職員全員が参加できる体制を整えることでより多くの知識・技術を習得できるようにする。
- ・令和3年より第5期指定管理を受託し、完全指定管理料金制から利用料金併用制へ変更の2年目となる。利用状況等の現状を把握し、療育、サービスの質を落とさず収入を上げる方法について運営会議等で検討し、全職員で取り組んでいく。

#### 結果

- ・社会福祉サービス第三者評価受審の結果を受け、各マニュアルの見直し、整備を行った。また、ヒヤリハット等の事例検討や利用状況などを職員会議等で職員全体に周知した。
- ・職員研修計画を整備し、出来るだけ多くの職員に研修に参加できるように配慮した。オンデマンド研修を取り入れ、職員全員で視聴し職員間で共有することが出来た。
- ・並行通園児の受け入れについては毎月の運営会議で検討し、児童発達支援管理責任者が中心となり並行通園児に対応することで利用率の向上を図りつつ、クラス運営も円滑に実施できた。

### 目標3 地域支援事業（親子教室・保育所等訪問支援事業）の充実

- ・親子教室は、保健センター、あそびのひろば・ぱすてるひろば、静岡済生会療育センター令和、静岡市発達障害者支援センターきらり、小児科医院、こども病院等からの紹介で参加児が増えている。今後も各関係機関との連携を密にし、随時受け入れを行い切れ目のない支援を行う。また、新型コロナウイルス感染防止のため小集団（1グループ7名まで）に分けて分散対応を継続する。
- ・保育所等訪問支援事業は計画相談事業所や児童発達支援事業所からの紹介が多いため、今後の連携を深めていく。また、保護者から利用希望があれば速やかに支援に繋げていく。

#### 結果

- ・親子教室は、密を防ぐため1グループ7組までとし、前半・後半に分けて実施した。年度の後半は、「ぱすてる広場」からの紹介児が増えたため、グループを増やして対応した。
- ・保育所等訪問支援事業は、年間14ケースと契約し支援を実施した。幼稚園、保育園等や他の児童発達支援事業所からの紹介が多く、複数の機関との連携が必要となった。保護者を含め支援内容や進路について各関係機関と連携を深める事が出来た。以前訪問した園の方から、新たな支援の相談があり、訪問支援の取り組みで信頼関係を築けたと感じている。

### 目標4 地域福祉事業の充実

- ・見学・研修・実習・ボランティア等について、地域に開かれた施設として新型コロナウイルス感染防止対策をしたうえで受け入れていく。

#### 結果

- ・「いこいの家通信」は行事の内容を写真にコメントを付けて読みやすく記載した。「おかあさんの詩」は、平成25年～平成30年までの60編を「お母さんの詩 第7集」として編集し、通園児、親子教室利用児、他関係各所に配布し、ホームページでも冊子のお知らせをした。
- ・感染予防のため、散髪奉仕以外のボランティアの受け入れは中止した。実習生受け入れは同時期に複数人が重ならないよう人数を制限して受け入れた。施設見学は感染予防対策を徹底しながら、施設内やこども達の様子を見ていただいた。また、社協主催の市民向けボランティア講座でいこいの家の紹介を行った。

## (1) 障害児通所支援事業（二種事業）

### ア 児童発達支援通所支援

一日平均在園(通園)児童41.5名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。並行通園児は、令和4年度は8名の通園児を受け入れた。

・入園児数（定員）	54名	(53名)
・年間新入園児童数	24名	(22名)
・年間退園児童数	21名	(21名)
・年間延在園（通園）児童数	8,980名	(9,321名)
・一日平均在園（通園）児童数	37.6名	(39.3名)



疾病別人員 令和4年4月1日～令和5年3月31日

月別在園児童数（年間通所日数 239日）

病名	年間取扱実人員（名）	構成比（%）
脳性麻痺	2	3.7
自閉スペクトラム症	31	57.4
精神遅滞（発達遅滞を含む）	5	9.3
染色体異常（ダウン症他）	10	18.5
その他	6	11.1
計	54	100.0

年月	在籍者数	延人数
4年 4月	53	779
5月	54	805
6月	54	878
7月	54	651
8月	54	681
9月	54	754
10月	54	743
11月	54	747
12月	54	708
5年 1月	54	654
2月	54	701
3月	54	879
合計	647	8,980
月平均	53.9	748.3
一日平均		37.6

## イ 保育所等訪問支援

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
保育所等訪問支援	15件	14件	14件
訪問支援	／件	91件	101件
来所相談	／件	68件	62件
電話相談	／件	497件	682件

## (2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業) ㊦

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
障害児支援利用計画 (モニタリング含む)	175件	174件	165件
特定計画相談	件	0件	0件
一般相談	190件	164件	142件
電話相談	件	1572件	1,346件
訪問支援	件	141件	155件
その他	件	409件	226件

## (3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 132回（月平均 11.0回）登録者数 127名（135名）

参加児延数 目標 1,700名 実績 1,891名（1,263名）

イ 療育相談の実施（随時） 目標 65名 実績 93名（77名） 延 141名

一般相談（電話及び来所） 411名（889名）

親子教室は、昨年度コロナ禍で中止した際は、個別で面談や電話での対応としていたが、今年度はコロナ流行時期の利用が少なかったが、親子教室を中止にすることなく実施できた。

療育相談は、面談時の発達検査等の結果などを踏まえ、家庭での関わり方や進路などについてフィードバックを丁寧に行った。親子教室利用児以外の入園前の面談・療育相談は入園受付係の職員が対応した。（13件）

## ウ 地域交流等

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流は、令和4年度もコロナ禍により地域交流祭りや交流保育は中止した。夏祭りは通園児・保護者のみで分散で実施した。ボランティアは散髪奉仕のみ実施、その他のボランティア受け入れは中止とした。実習生は、感染対策を徹底し、同時期になるべく複数人が重ならないよう調整して受け入れを行った。社協主催の市民向けボランティア講座でいこいの家の紹介を行った。

防災関係では、近隣の町内会長宅や小学校に出向き、施設の現状について伝える事が出来たが合同での防災訓練はコロナ禍という事で実施できなかった。園内の防災訓練で、小学校の敷地内に避難する経験が出来た。

- ・いこいの家通信発行 12回 (12回) 306部 (308部)
- ・夏祭り参加者 通園児と保護者のみクラス毎で実施 保護者 49名 (42名)
- ・城東保健福祉エリア地域交流まつり中止 0名 (0名)
- ・実習生受入 53名 (21名) 延 253名 (49名)
- ・体験研修受入 2名 (0名) 延 2名 (0名)
- ・ボランティア受入 2名 (2名) 団体0名 (0名) 延 18名 (18名)

※地域交流祭りはコロナウイルス感染症予防のため中止

## 11 小 鹿 苑

### 基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

### 令和4年度目標及び結果

「積極的に小鹿苑の魅力を発信する」

#### 目標1 施設や住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援する

- ・感染症対策をしっかりと確立し、実行する。
- ・エビデンスに基づき、丁寧で質の高いサービスに努める。

**結果** 感染症対策については、計画通りに対応したが、ワンフロアー・多床室という条件のもと大規模クラスター発生になってしまった。法人内施設を含め関係機関の協力のもと、長期のクラスター発生を防ぐことができた。今回の経験をもとに、終息後の生活等の対応について、BCPの改定を進めていきたい。

ヒヤリ・ハット、事故の検証を行い、新たな実践マニュアルの作成・改訂を行った。安全な質の高い介護を実践した。

#### 目標2 地域の福祉活動を支える

- ・新たな生活様式のもと、「小鹿苑カフェ」を地域の居場所として再構築する。

**結果** 新たな生活様式のもと、「小鹿苑カフェ」を再開。途中、施設でのクラスターにより、中断もあった。コロナ禍において、感染予防のため、自宅にこもることが多くなり、フレイルの問題も顕在化した。「小鹿苑カフェ」の必要性が再認識された。

#### 目標3 稼働率の向上を図り、安定した運営を目指す

- ・事業計画の目標に向けて、職員一人ひとりが努力する。
- ・LIFE（科学的介護情報システム）を活用し、科学的な介護を推進する。

**結果** 加算の取得により、収益は向上した。コロナのクラスターにより、稼働率を上げることができなかった。

#### 目標4 人材を確保し職員のスキルアップに努める

- ・実習生へきめ細かい指導を行い、雇用に繋げる。
- ・就職相談会等に参加し、積極的な採用活動を行う。
- ・介護技術の向上と標準化により、サービスの質の向上を図る。

**結果** 実習生に対し各課（科）担当者が係るようにし、施設のアピールに努めた。コロナ禍のため、オンライン研修の参加が多くなった。時間・費用においてもハードルが下がり積極的に参加できるようになり、スキルアップにつながった。

### (1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

経営の健全化のため空床率の削減に努めたが、コロナクラスターにより、新規の入所を停止したため、稼働率が減少した。

要介護認定者で、常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な方に対し、適切な健康管理のもとに、良質な施設サービスを提供することができた。

・年間新入所者数	36名	(28名)
・年間退所者数	35名	(27名)
・入所者平均年齢	85.1歳	(86.1歳)
・平均介護度	4.08	(4.18)
・新規入所申込	74件	(53件)
・入所希望者(年度末現在)	85名	(81名)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均延利用人数	79名	76.0名	79.9名

疾病別人員 (令和4年4月1日～令和5年3月31日現在)

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中等	17	14.9
認知症等	77	67.5
リウマチ、脊椎症等	0	0
その他	20	17.6
計	114	100

(2) 老人短期入所事業(二種事業) 定員20名(20名)

昨年度から引き続き、介護度の高い利用者の受入れに対応した。

ただし、コロナクラスターにより、新規受入れを中止した期間が続いたため、利用者数減となった。

・年間延べ利用者数	2,665名	(3,156名)
・年間実利用者数	283名	(280名)
・利用者平均年齢	87.3歳	(89.0歳)
・平均介護度	要介護 3.41	(3.31)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均延利用人数	12名	7.3名	8.6名

(3) 老人デイサービスセンター(通所介護事業)(二種事業) 定員一日35名(35名)

市中に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、濃厚接触・感染予防のため、利用控えが多く発生した。

※コロナフレイル予防のため、自主的生活の助長、孤立感の解消、心身機能の維持向上を図った。

※「フレイル」とは、健康な状態と要介護状態の間を指す。「コロナフレイル」とは、新型コロナウイルス感染症流行による外出自粛の長期化に伴い、「生活不活発(動かないこと)」になった結果、体力・気力が低下して一気に老化が進むこと。

・年間延べ利用者数	5,832名	(6,158名)
・年間実利用者数	546名	(573名)
・年間実施日数	307日	(308日)
・利用者平均年齢	87.3歳	(87.3歳)
・平均介護度	要介護 3.0	(2.3)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均延利用人数	22名	19.0名	20.0名

#### (4) 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、11 人のヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。認知症で独居の方のサービスご利用希望が増えている。

- ・年間延べ利用者数 3,155 名 (2,964 名)
- ・年間実利用者数 474 名 (455 名)
- ・年間活動日数 308 日 (308 日)
- ・利用者平均年齢 83.6 歳 (82.6 歳)
- ・平均介護度 要介護 1.8 (1.82)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均延利用人数	17 名	10.2 名	9.6 名

#### (5) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）委

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につないだ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

- ・年間延べ相談者数 2,173 名 (2,267 名)
- ・介護予防支援（直営・委託） 3,595 件 (3,585 件)
- ・介護予防ケアマネジメント（直営・委託） 1,921 件 (1,808 件)
- ・年間活動日数 308 日 (308 日)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
月平均数	400 件	459.7 件	449.4 件

#### (6) 居宅介護支援事業（公益事業）

5名のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行う等の連携を図った。

- ・年間ケアプラン給付管理者延べ数 2,281 件 (2,325 件)
- ・ケアプラン新規作成者 77 名 (83 名)
- ・平均介護度 要支援 1.66 要介護 2.11 (要支援 1.52 要介護 2.11)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
月平均件数	183 名	190.0 名	193.7 名

#### (7) 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する通所介護相当サービス又はホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する訪問介護相当サービスを行った。

(通所介護相当サービス)

- ・年間通所相当延べ利用者数 353 名 (404 名)
- ・年間通所相当実利用者数 53 名 (69 名)
- ・年間通所相当実施日数 308 日 (308 日)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
月平均実利用者数	10名	4.4名	5.8名

(訪問介護相当サービス)

- ・年間訪問相当延べ利用者数 2,422名 (2,512名)
- ・年間訪問相当実利用者数 392名 (378名)
- ・年間訪問相当実施日数 308日 (308日)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
月平均実利用者数	30名	32.7名	31.5名

月別在所(利用)者数

(名)

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当		地域包括支援センター	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
4月	81	2,332	22	193	46	497	6	36	40	265	35	229	82	151
5月	83	2,379	23	203	47	502	6	34	39	259	35	239	93	155
6月	80	2,352	26	216	48	519	5	33	39	259	35	237	98	171
7月	80	2,439	32	303	45	488	5	32	40	245	36	214	115	219
8月	82	2,429	32	252	44	482	4	31	41	272	33	198	95	157
9月	82	2,352	26	230	46	515	4	26	40	271	31	209	91	173
10月	81	2,414	28	329	48	533	4	30	43	294	31	193	98	183
11月	82	2,345	29	328	48	998	4	29	43	303	30	183	99	214
12月	79	2,393	22	222	46	455	4	27	38	257	33	180	95	155
1月	73	1,999	3	43	44	463	4	24	36	240	32	182	96	183
2月	77	1,932	18	128	42	405	4	26	36	222	31	165	112	223
3月	80	2,390	22	168	44	475	3	25	39	268	30	193	110	189
合計	960	27,756	283	2,665	546	5,832	53	353	474	3,155	392	2,422	1,184	2,173
月平均	80.0	2,313.0	23.6	222.0	45.5	486	4.4	29.4	39.5	262.9	32.7	201.8	98.7	181.0
1日平均	76.0		7.3		19.0		1.1		10.2		7.9		7.1	
					20.1				18.1					

(8) 奨学金貸与事業(公益事業)

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

令和4年度から法人採用、当苑で勤務することになった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間貸与延べ人数	1名	0名	1名

## 12 小鹿なでしこ苑

### 基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく  
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 安心安全な介護サービスの提供

- ・入居者様とその人らしく生活できるように、ニーズの把握に努め、ケアプランに沿った援助を実施していく。
- ・ご家族にも安心していただけるように、面会や月例のお手紙、体調変化時の連絡、看取り期の対応など丁寧な対応を継続していく。

**結果** 担当者会議がなかなか開催できなかった分、電話やアンケートにて家族の意向を確認しプランに反映させた。満足度調査の結果では、ケアプランおよび介護支援に対する評価は高かった。また、月例のお手紙に関する評価も高く、面会制限により会えない時間が長いものの様子が伝わり、安心して任せられると大勢の家族から感謝のコメントいただいた。看取りにて退所された方の家族からは、最後まで家族の気持ちに寄り添ってくれる丁寧な介護だったとコメントをいただいた。

#### 目標2 LIFE（科学的介護情報システム）の活用

- ・LIFEを活用し、根拠に基づくPDCAサイクルを浸透させ、サービスの質の向上を図る。

**結果** LIFEには科学的介護推進体制加算取得にも繋がる情報を毎月入力しているが、現在フィードバックされているデータは事業者情報や利用者の内訳などであり科学的介護に結びつけるには難しいものとなっているため、今後戻されてくるデータを見ながら活用法を検討していく。

#### 目標3 事業継続計画に基づく訓練の実施

- ・自然災害と感染症に対する事業継続計画を徹底させるため訓練を計画し実施する。

**結果** 感染症に対応した訓練は、計画するたびにコロナの陽性者が発生してしまい実施できなかったが、令和4年度中に4回実践対応する機会があったため、結果的に主務者が不在であっても対応が取れるようになった。自然災害に対する訓練では、民生委員3名の立会いにより第三者的意見もいただくことができた。

#### 目標4 「なでしこカフェ」の新しい形での開催

- ・地域の実情を踏まえ、感染対策をしつつ、新しい形での開催を目指す。同時に、地域に内在するニーズの発掘ができるようにしていく。

**結果** 公民館でのサロンは年度途中より再開されたが、施設内ではコロナ陽性者の発生により面会制限をかけていたため、家族が入館できない中、近隣住民の入館を認めることができずカフェを実施することができなかった。町内の夏祭りは感染対策に配慮した形で開催する予定であったが第7波により中止となった。開催においては施設に出店の協力要請があり承っていた。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 定員 96 名 (96 名)

昨年度より入院者数が多く、目標値には届かなかった。重度化が進み平均介護度が上がってきている。

・年間新入所者数	30 名	(21 名)
・年間退所者数	31 名	(22 名)
・一日平均入所者数	92.7 名	(93.1 名)
・入所者平均年齢 (R3. 3. 31 現在)	85.29 歳	(84.7 歳)
・平均介護度	4.3	(4.23)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均入所者数	94 名	92.7 名	94.8 名

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員 13 名 (4 名)

実利用者数は年間3名で、そのうち2名が長期入所になった。

・年間延べ利用者数	457 名	(404 名)
・一日平均利用者数	1.24 名	(1.3 名)
・利用者平均年齢 (R4. 3. 31 現在)	90.0 歳	(93.0 歳)
・平均介護度	4.0	(3.00)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用者数	3 名	1.2 名	1.3 名

月別利用者数

(名)

	特 養		短 期	
	月末入所者数	入所者延人数 ※	実人数	利用者延人数
令和4年4月	96	2,794	1	30
5月	94	2,853	1	31
6月	95	2,766	1	26
7月	96	2,909	1	21
8月	93	2,908	1	31
9月	95	2,783	2	35
10月	95	2,868	2	62
11月	96	2,819	2	60
12月	96	2,914	2	62
令和5年1月	93	2,854	2	40
2月	92	2,561	1	28
3月	94	2,820	1	31
合計		33,849		457
一日平均		92.7		1.2

※介護報酬を算定している人数



### (3) 奨学金貸与事業（公益事業）

介護福祉士養成施設で学ぶ1名の外国人に対して奨学金を貸与した。

令和4年度から法人採用、当園で勤務することになった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間貸与延べ人数	1名	0名	1名

### (4) その他事業（なでしこプラン）

独居高齢者等の居場所づくりと介護予防を目的とした「なでしこカフェ」を月一回開催する予定であったが、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響で、開催することができなかった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
年間延べ人数	0名	0名	0名

## 13 静岡市桜の園

### 基本理念

「あなたらしさを応援します」

～人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。～

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 新型コロナウイルスとの共存という視点で地域との共生を考え、積極的な情報発信を行うことで施設の組織活性化をめざす

- ・ホームページやInstagram等SNSを活用した情報発信を積極的に行うことでご家族等の安心感を得るとともに、施設の透明性の確保、認知度の向上に努めます。
- ・新たに作成した事業所単位のリーフレットを活用して特別支援学校や相談支援事業所等の関係機関へ訪問するなどして、「顔の見える関係」の再構築をめざします。
- ・施設に人が集うイベント等を企画し、また地元主催のイベントには積極的に参加するなどして地域の方々とつながり、支え合うような活動に取り組んでいきます。

**結果** 地域の行事が再開され、秋桜祭、大茶会、防災訓練などで部分的ではあるが、地域住民との交流をすることができた。インスタ、ホームページを積極的にアップし、認知度を上げる努力を継続している。施設のアピールのため関係機関への訪問を行ったが、新規利用者の十分な確保には至らなかった。台風15号では、微力ではあったが地域のボランティア活動に協力し、支え合う姿勢を示すことができた。

#### 目標2 サービスの向上に努める

- ・コロナ禍で面会や外出など制限を受ける中、入所利用者のストレス軽減を図り、日々の楽しみを充実できるように日課を見直すとともに、職員の負担にも留意し、勤務体制の見直し等も含めて改善していきます。
- ・リハビリテーション体制の強化として、理学療法士の増員を行い入所での個別リハ・生活リハの充実を図り、また作業療法士を生活介護2か所に兼務配置して集団リハを実施し、利用者のQOLの維持・向上に努めます。
- ・利用者の重度化及び高齢化対策として、介護電動機器等を整備し安心安全な介護の提供を行うとともに、職員の腰痛予防等にも役立てます。

**結果** 日課を見直して日々の楽しみを提供できるように工夫したが、人員不足、ホール天井工事などがあり、十分な場を提供することができなかった。増員された理学療法士による個別リハは入所者の満足度が高く、今後より充実させていきたい。介護機器の導入はできなかったが、腰への負担を軽減できるように職員間で情報共有し工夫して介護を行い、安心安全な介護を提供することができた。

#### 目標3 施設の安定的な運営を図っていく

- ・利用者及び職員の健康管理に留意し、メンタルヘルス対策や新型コロナウイルス等感染症対策に努めます。
- ・新型コロナウイルスの感染状況を勘案しながら、学校等と連携して健康状態を把握し、実習生を受け入れて就職やサービス利用に結びつくよう努めます。
- ・経営状況等について、介護等福祉職であっても経営を意識し事業運営に携わる

ことができるよう努めるとともに、利用者や家族等にも分かり易い説明をして理解を求めます。

**結果** コロナ対策は状況に応じて適切に対応することができた。コロナでの出勤停止や体調を崩す職員があり、勤務調整には苦慮し、結果的に多くの職員が業務の量的負担を訴える状況であった。職員に経営状況に関する説明を行い、職員の経営意識の浸透を図った。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 50 名、生活介護 80 名）・ ・ 指

ア 施設入所支援（定員 50 名）、生活介護（入所）（定員 50 名）

感染予防に努め入所者のコロナ感染者はなかった。面会や外出の制限に加え、浴室の改修工事、ホール天井工事があり、入所者には大きな負担をかける状況ではあったが、一人一人の声をよく聞き、丁寧な支援ができるように心掛けた。長期入院者があり昨年度実績を下回る結果となった。

- ・ 新規入所者数 2 名 (2 名)
- ・ 退所者数 2 名 (1 名)
- ・ 延べ利用者数 施設入所支援 17,907 名 (17,969 名)  
生活介護 12,808 名 (12,889 名)

一日平均利用人数	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
施設入所支援	49.5 名	49.1 名	49.3 名
生活介護	49.5 名	49.1 名	49.4 名

疾病別人員

令和5年3月31日現在

病名	実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	1	2
脳性麻痺	19	38
脳外傷 (頭部外傷)	5	10
脊髄損傷	3	6
頸髄損傷	4	8
下肢機能障害 (上記以外)	6	12
特定疾病 (難病等)	4	8
その他	8	16
計	50	100

月別利用者数

(入所支援日数 365 日・生活介護日数 261 日) (名)

	入所支援		生活介護			入所支援		生活介護	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
4年4月	50	1,500	50	1,050	10月	50	1,548	50	1,050
5月	50	1,532	50	1,088	11月	50	1,492	50	1,094
6月	50	1,444	50	1,059	12月	50	1,505	49	1,068
7月	50	1,500	49	1,016	5年1月	50	1,517	49	1,076
8月	50	1,528	50	1,134	2月	50	1,360	49	972
9月	50	1,431	50	1,051	3月	50	1,550	50	1,150
					合計	600	17,907	596	12,808
					月平均	50	1,492	49.6	1,067
					一日平均		49.1		49.1

イ 生活介護(通所) (定員 30名)

退所者4名(うち3名は施設入所)があったものの、有期限サービス(自立訓練)が終了するなど利用日数を増やす方が4名あり、利用実績は昨年度を上回った。

- ・実利用人数 36名 (35名)
- ・新規利用者数 1名 (2名)
- ・退所者数 4名 (4名)
- ・年間延べ利用者数 4,745名 (4,340名)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	24名	19.6名	18.1名

月別利用者数 (年間開所日数 243日) (名)

	初日 在籍者数	延べ人数		初日 在籍者数	延べ人数
4年4月	35	393	10月	33	399
5月	35	368	11月	34	400
6月	35	429	12月	33	390
7月	35	399	5年1月	33	364
8月	33	402	2月	33	379
9月	33	407	3月	32	415
			合計	404	4,745
			月平均	33.7	395.4
			一日平均		19.6

(2) 日中一時支援事業(公益事業) [生活介護(通所)空床利用] (指)

日中において一時的な見守りその他の支援を必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供する事業であるが利用者はなかった。

- ・実利用人数 0名 (0名)
- ・年間延べ利用者数 0名 (0名)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0名	0名

(3) 障害福祉サービス事業(短期入所)(二種事業) 定員5名 (指)

年間を通じて緊急の要請にも対応し、家族の急な疾病等など地域で暮らす方々のニーズに応じた。新規利用者も4名あり、昨年度実績を上回った。

- ・実利用人数 28名 (28名)
- ・年間延べ利用者数 1,137名 (1,036名)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	4.0名	3.2名	2.9名

月別利用者数

(年間開所日数 365日) (名)

	日中一時		短期入所			日中一時		短期入所	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
4年4月	0	0	18	100	10月	0	0	17	133
5月	0	0	13	91	11月	0	0	20	126
6月	0	0	15	80	12月	0	0	22	119
7月	0	0	13	69	5年1月	0	0	18	98
8月	0	0	10	64	2月	0	0	15	83
9月	0	0	11	111	3月	0	0	15	63
					合計	0	0	187	1,137
					月平均	0	0	15.6	94.8
					一日平均		0		3.2

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業(生活介護)(二種事業)定員20名(指)

新規利用者はなく、1名が他施設利用のため退所となった。利用日数を減らす方が3名いて、実績は昨年度を下回る結果となった。新規利用者獲得に動いてはいるが、利用につながっていない。特別支援学校からの実習生は1名、見学は2名あった。

- ・実利用人数 18名(18名)
- ・新規利用者数 0名(1名)
- ・退所者数 1名(0名)
- ・年間延べ利用者数 3,057名(3,144名)

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	14.0名	12.6名	13.0名

月別利用者数(年間開所日数 243日)

(名)

	初日 在籍者数	延べ人数		初日 在籍者数	延べ人数
4年4月	18	241	10月	18	255
5月	18	238	11月	18	254
6月	18	281	12月	18	253
7月	18	252	5年1月	18	234
8月	18	280	2月	18	239
9月	18	260	3月	17	270
			合計	215	3,057
			月平均	17.9	255
			一日平均		12.6

## 14 静岡市中心身障害者ケアセンター

### 基本理念

私たちは、あなたと社会をつなぎ、あなたの自立生活を応援します。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 多様化する障害や個人の状況に即した適切な対応ができるように努める

結果(1) 個人の状況に適した対応や支援の幅を広げるため、個別の担当者会議等に積極的に参加し、情報収集するとともに、各機関との連絡体制の強化に努めた。

(2) 個人の適正に即した自立訓練のプログラムを作成し、自立訓練終了後の就労や適切な障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。

移行先	就労継続支援B型	1名	一般就労	1名	就労移行	1名
	生活訓練	3名	生活介護	10名	入所施設	2名
	その他	2名	(体調不良等)			

(3) 利用者の障害の種別等に即した適切な対応ができるよう、職員の研修への積極的な参加を進めた。

職員研修参加回数	目標：30回	延べ参加者数	70名
	結果：75回	延べ参加者数	202名

#### 目標2 利用者一人ひとりの自立した地域生活につなげる

結果(1) 在宅生活に必要なリハビリ(歩行訓練、筋力維持向上訓練等)や自主トレ(筋力維持向上、手の操作性の向上等)を提供し、安心して日常生活を営むことができるように努めた。

延べ利用者数：自主トレーニング	1,620名(1,255名)
：リハビリ	2,322名(1,920名)

(2) 地域で生活するためには不可欠な能力向上のための訓練(家事訓練、買い物訓練、SST等)を行い、自立した日常生活を営むことができるように努めた。

延べ利用者数：社会適応訓練	3,276名(3,438名)
---------------	----------------

#### 目標3 利用者の意向にできる限り沿ったサービス提供に努める。

結果 訓練、送迎、入浴の見直しを随時行い、満足いただける環境づくりに努めた。

利用者アンケートのサービス満足度	目標：90%以上	結果：86%(88%)
------------------	----------	-------------

#### 目標4 利用率向上に努める。

結果(1) 各種病院、相談支援事業所、居宅介護支援事業所等と連携し、自立訓練の役割・必要性を周知し、新規利用者の受け入れを促進した。

(2) 介護保険併用の利用者も機能訓練が可能な場合があるため、事業所からの問い合わせに対し、積極的に対応し利用に繋げた。

(3) 利用者様からの紹介により利用に繋がったケースがあった。

リハビリ病院	0名	相談支援事業所	15名
居宅介護支援事業所	3名	グループホーム	1名
ご利用者様	2名		

## 目標5 感染症対策の継続に努める

- 結果 (1) 感染対策委員会を中心に、職員向けに感染症対策のための Web 研修等に積極的に参加し、実践に繋がった。
- (2) 利用者向けにイラストなどを使用し、分かりやすい感染症対策を講じた。
- (3) 職員が毎月、「感染予防チェックリスト」を実施することで日頃の感染対策を見直す機会とした。
- (4) 産業医による利用者向け感染症講座を実施し、感染対策への理解を深めた。
- (5) 産業医による指導を受け、感染対策の継続・改善を行った。  
 感染症対策 感染対策用品の購入 (CO2 センサー、パーテーション)、

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練のサービス支給期間が終了した後、継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施した。

指定管理期間の3年目である令和4年度は、利用者ニーズに応えるべく、柔道整復師を機能訓練指導員として1名配置することで、利用者ニーズの充足と、サービス向上につながった。

ケアセンターサロン（利用者からの意見収集の場）、意見箱の改善を図り、多くの意見をいただき、環境の改善とサービス向上に繋がった。

利用者ニーズに応えるべく、フラワーアレンジメント教室の実施（3回）、地域ニーズに応えるべく、クリーン活動（地域の清掃活動）（7回）を実施した。

福祉サービス第三者評価を始めて受審し、評価結果は概ね好評であったが、足りないこと、何をやらなければならないのかがわかった。例えば、「定期的」「継続的」という課題が出たため、来年度はその課題に取り組んでいく。

併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として静岡市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

### (1) 障害福祉サービス事業①

#### ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員 20 名）

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡済生会療育センター令和から訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用者数	9名	11.1名	7.9名

#### 月別利用者数（年間開所日数 240日）

区 分 年 月	機能訓練		区 分 年 月	機能訓練	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
4年4月	26	221	5年1月	27	190
5月	22	185	2月	30	247
6月	23	216	3月	31	290
7月	23	205	合 計		2,664
8月	23	225	月平均		222
9月	24	209	一日平均		11.1 (7.9)
10月	24	232			
11月	24	223			
12月	25	221			

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用者数	9名	9.8名	7.5名

月別利用者数（年間開所日数 240日）

区 分 年 月	生活訓練		区 分 年 月	生活訓練	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
4年4月	27	199	5年1月	26	174
5月	27	185	2月	27	186
6月	27	227	3月	27	224
7月	24	182	合 計		2,346
8月	23	192	月平均		195.5
9月	23	196	一日平均		9.8 (7.5)
10月	22	186			
11月	26	203			
12月	26	192			

(2) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）㊦

事前予約制に切り替えた。自立訓練終了後、ご利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用者数	6.5名	2.7名	5.9名

月別利用者数（年間開所日数 240日）

区 分 年 月	日中一時支援		区 分 年 月	日中一時支援	
	実人員(名)	延人数(名)		実人員(名)	延人数(名)
4年4月	16	54	5年1月	12	38
5月	17	60	2月	10	36
6月	16	74	3月	9	42
7月	16	68	合 計		636
8月	15	66	月平均		53.0
9月	14	68	一日平均		2.7 (5.9)
10月	14	42			
11月	13	39			
12月	12	48			

(3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）㊧

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア)年間相談延べ件数 4,617件（内、ピアカウンセリング 154件）（3,660件）  
 年間相談延べ人員 826名（内、ピアカウンセリング 90名）（640名）  
 （年間開所日数 243日）

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均延べ件数	8件	11.8件	14件



(イ) その他の活動 身体障害者生活支援事業	105回	(107回)
・社会資源を活用するための支援 (外出支援等)	54回	(67回)
・社会生活力を高めるための支援 (パソコン教室)	51回	(40回)
(ウ) 参加会議 主催した個別支援会議	63回	(37回)
参加した個別支援会議	51回	(36回)
連絡調整会議等	22回	(20回)

#### イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成 (特定相談・障害児相談支援)

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用 (身体・知的・精神) に関するサービス利用計画書及びモニタリングを作成した。

サービス等利用計画及びモニタリング作成件数 (年間開所日数 243日)

区 分	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
月平均サービス利用計画書 及びモニタリング作成件数	45件	46.5件	44.8件
年間件数	540件	558件 ※内児童 27件	537件 ※内児童 18件

## 15 ワーク春日

### 基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

### 令和4年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

#### 目標1 経営の安定を図る

- ・作業環境の改善・利用者様の健康管理を行い出席率の向上を図る。
- ・利用者様の気持ちに寄り添い、一人ひとりの通所日数が増えるようにする。

**結果** 利用者数の増に努めたが、年度末には健康上の理由等から退所や日数を減らす方がいた。

60代から70代の方もいるため、産業医による講習会を行うなど利用者様の健康に留意し、長期の利用に繋がるよう努めた。

#### 目標2 作業内容の検討

- ・点字印刷に代わる新規授産事業について検討し、将来的な導入に向けて試験的に実施する。
- ・授産品展示即売を行う「福祉楽市」への参加をふまえ、自主製品の開発を検討する。

**結果** 年度後半から受注を受けている軽作業の事業所が増えてきた。軽作業が増えることで、どの程度の利益が見込めるかを検討したい。

初めて、自主製品を製作し販売した。従来、商品として使えなかった点字用紙での和紙も試作した。また、利用できなくなった封筒や紙を使用し、コストのかからない紙製品の商品化に努めた。

#### 目標3 工賃の向上を目指す

- ・既存の軽作業では、だれにでもできる作業を充実させるなど、作業効率の向上を図り、受注量を増やす等の工夫により工賃の向上を目指す。

**結果** 受注を受けている事業所が増えたため、今までとは違う製品が入ってきている。色々な製品があることで利用者様の作業の幅も広がっている。

年度末に評価を行い、3年ぶりに数名の利用者様の工賃を上げることとしたが、全員の工賃向上を目指したい。

#### 目標4 「済生会障がい者就労支援協議会」の当番県としての役割を担う

- ・一昨年度、昨年度と開催予定の「済生会障がい者就労支援協議会」がコロナ感染症の拡大により延期となったため、引き続き開催当番県となった場合には、協議会での検討課題の取り纏め及び運営を行う。

**結果** 3年ぶりの開催となる「済生会障がい者就労支援協議会」は、北海道支部が担当した。

5年度は、10月に静岡での開催が予定されているため、協議会での検討課題の取り纏め及び運営を行う。

**(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）**

利用者数の増により、目標の 26 名を超える月もあったが年間では目標に及ばなかった。新規利用者が増えても退所者もいるので、相談支援事業所へ訪問し、新規利用者の獲得に努めた。今後は、心療内科などへの訪問を積極的に行っていく。

平均工賃については、新規利用者の工賃が低いことと長期利用者が退所したことで、前年度より少なくなった。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	26 名	25.6 名	23.4 名
平均工賃月額	—	16,084 円	16,973 円

**●月別利用者数 (名)**

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
R3 年 4 月	32	1		20	495	24.8
5 月	32			19	467	24.6
6 月	31		1	22	531	24.1
7 月	32	1		20	513	25.7
8 月	32			20	535	25.5
9 月	33	1		21	508	25.4
10 月	34	1		20	520	26.0
11 月	34			20	516	25.8
12 月	34			20	538	26.9
R4 年 1 月	34			19	503	26.5
2 月	33		1	19	498	26.2
3 月	33		1	22	569	25.9
合計	---	4	3	242	6,193	25.6

**●障害別利用者数（令和4年4月から令和5年3月） (名)**

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	0	6	6	知的との重複1名
	聴覚	1	-	1	
	肢体不自由	16	4	20	知的との重複1名
	内部	2	-	2	肢体不自由との重複1名
知的障害		2	3	5	身体との重複1名 精神との重複1名
精神障害		2	3	5	
合計		23	15	39	

**(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員 6 名）**

長期に亘る利用者の退所と、1 名の新規利用にとどまったことで、目標には及ばなかった。令和5年5月には1 名の利用が予定されているが、授産事業所同様、福祉ホームの利用者獲得に向け、相談支援の事業所等を訪問するとともに、今後の福祉ホームの在り方を静岡市とともに検討していきたい。

	令和4年度計画・目標	令和4年度実績	令和3年度実績
一日平均利用人数	4.0 名	2.1 名	3.5 名

## 16 静岡済生会看護専門学校

### 基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

### 令和4年度目標及び結果

**目標1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する**

**結果** 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、看護師としての基礎的能力の育成とともに済生の精神を常に意識させるよう、学年目標を設定し個別性に配慮しながら講義・実習を積み重ねた。

**目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す**

**結果** 学年ごとの教育目標と看護師国家試験を視野に入れ、3学年の学習効果を評価しながら、学習方法を工夫した。結果、卒業生39名全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

**目標3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する**

**結果** 新型コロナウイルス感染症の影響による制約はあったが、臨床の協力も得て、臨床に最大限近づけた学内実習や遠隔授業を実施することにより、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養った。

**目標4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る**

**結果** 教育体制を整えるため、教員1名を教務主任研修に参加させた。また、教員全員でeラーニングやオンライン研修を活用し、教員の教育力の向上に努めた。

**目標5 令和4年度新カリキュラムと旧カリキュラムへの対応に向けて教育内容と方法の充実を図る**

**結果** 電子教科書を導入し効果的な学習支援とカリキュラムの運用を継続的に検討しながら進めた。また、旧カリキュラムに対しても学習効果が上がるものは、取り入れて学習の充実を図った。

### (1) 学年別在籍者数 (定員 120名)

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
令和4年度実績	33名	38名	39名	110名
令和3年度実績	44名	40名	35名	119名

## (2) 看護師国家試験結果

(名・%)

	令和4年度実績			令和3年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	39	39	100.0	32	32	100.0
県内看護専門学校(3年課程)	-	-	95.2	-	-	95.8

令和4年度の全国(3年課程)の合格率は90.8%

## (3) 卒業生の進路

(名)

区 分	令和4年度実績	令和3年度実績
済生会総合病院	36	30
その他県内病院	1	2
県外病院	2	0
進 学	0	0
そ の 他	0	0
計	39	32

## (4) 入学試験結果

(名)

区 分		令和5年度	令和4年度
受験者	推薦入試	26	31
	社会人入試	12	11
	一般入試	79	52
	計	117	94
合格者	推薦入試	24	22
	社会人入試	2	1
	一般入試	31	29
	計	57	52
入学者	推薦入試	24	22
	社会人入試	2	1
	一般入試	15	5
	計	41	28

## 17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか

### 基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

### 令和4年度目標及び結果

#### 目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する

- ・所内での定期的な研修会企画や外部研修への参加を促し、個々のスキルアップをめざす（外部のリモート研修への積極的な参加を勧める）。
- ・利用者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策の周知徹底を促す。
- ・事例検討やカンファレンスを定期的に行い利用者の情報や問題の共有を図る。
- ・介護サービス情報公表、インシデント、アクシデント報告の徹底を促す。
- ・接遇、看護者の倫理綱領、コンプライアンスの周知徹底を促す。

**結果** 部所内研修はスタッフの希望を聞き、年間計画に沿って毎月行った。参加率も8割以上で、満足度も高かった。他機関の主催する研修はWEB研修が多く現地に行かなくても参加出来る利点から、参加する機会が多くタイムリーな情報を得ることが出来た。感染対策については、スタッフの手技統一を図り利用者にも感染対策を数回にわたって呼び掛けた。また、年に一度行っている利用者満足度調査から、利用者の意見を訪問に生かすとともに、スタッフ間でカンファレンスを行い情報共有に努め、統一した看護が提供出来るようにした。

#### 目標2 利用者・地域のニーズを知り、関係機関、他職種との密接な連携を図る

- ・他機関、他職種との連携を積極的に行う（サービス担当者会議、退院前カンファレンスへの参加など）。
- ・同一法人内での他職種連携を強化する（静岡済生会病院相談室、入退院支援室 居宅支援事業所等）。
- ・利用者満足度調査実施
- ・広報活動（毎月のおたより発行・年報の発行など・出前講義）

**結果** コロナ禍の中であり、退院前カンファレンスや担当者会議の開催が紙面上でのやり取りで定着してきたこともあり昨年度より参加回数は減少したが紙面や電話でのやり取りで代替え出来た。静岡済生会総合病院の地域医療センターと小鹿苑ケアプラン部との連携を密に取ることで、病院と小鹿苑からの新規依頼が前年度より10件以上の増加となった。また、利用者にとっても、病院と連携が取れているという安心感に繋がった。

利用者に向けて毎月のおたより発行や関係機関に向けた年報の発行とともに、地域施設に手技指導へ出向いたり、町内会からの依頼で地域住民に対して出前講座を行い、地域連携や在宅医療の広報活動に役立てた。

### 目標3 健全で安定した運営をめざす

- ・年間訪問件数 18,500件（看護13,500件・リハビリ5,000件）を目標にする。
- ・毎月の職員会議にて実績統計をスタッフにも周知させ評価をしていく。
- ・残業時間の短縮、エコ活動で経費削減をめざす。

**結果** 前年度の訪問件数が減少したことで、新規依頼は断らないとして、来た依頼は受け、上半期は順調に件数を伸ばしてきたが、下半期になり新規依頼と同人数、もしくはそれ以上の終了者があり、訪問件数の減少につながった。その結果、前年度より年間訪問件数が202件減少し、目標訪問件数に対し約2,500件少ない結果となった。訪問件数の状況についてと、個人の残業時間を毎月の会議で提示し、そこでその都度振り返りと対策を立てた。

### 目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める。

- ・連続休暇が取れるよう配慮し、有給休暇の消化率をアップさせる。
- ・心身の安全やワークライフバランスの充実を図るため職場環境を整える。
- ・個人面接の実施

**結果** スタッフの希望を聞き有給休暇をつけるようにし、夏休み等は連休が取れるようにした。また当番で夜間訪問があった時は翌日の勤務を半日または休みとし、心身を休めるようにした。

個人面接は定期的に行うとともに、必要時はスタッフに声掛けし随時個人面接を行いスタッフの意見を聞いた。

### (1) 訪問看護事業実績

\* ( ) 内は令和3年度実績

令和4年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は15,865件であり、令和3年度に比べ202件（介護保険849件減、医療保険757件増、その他110件減）減少した。また、訪問延件数のうち、6,023件（6,799件）は、サテライトみかど台分である。

令和4年度間目標件数 18,500件

令和4年度実績件数

介護保険延べ件数 11,534件 (12,383件)

医療保険 4,254件 (3,497件)

その他(実費訪問) 77件 (187件)

合 計 15,865件 (16,067件)

月平均1,322件 (1,338件) 1日平均65.3件 (66.1件)

### 疾病別

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

病 名	人 員 (名)	構成比 (%)
神経系疾患	51	12.3
呼吸器系疾患	23	5.6
精神障害	30	7.2
脳血管系疾患	19	4.6
骨格系及び結合組織疾患	30	7.2
悪性腫瘍	115	27.7
その他	147	35.4
計	415	100.0

**月別訪問者数**

(年間訪問日数 243 日)

年	月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)	
4年	4月	237	1,298	
	5月	240	1,262	
	6月	246	1,442	
	7月	248	1,375	
	8月	241	1,429	
	9月	252	1,436	
	10月	245	1,320	
	11月	238	1,231	
	12月	238	1,240	
	5年	1月	242	1,196
		2月	252	1,241
		3月	249	1,335
計		2,928	15,865	
月平均		244.0	1,322.1	
一日平均			65.3	

**年齢別性別訪問者数**

(令和4年4月1日～令和5年3月31日) (単位：名)

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合 計
男性	17	11	7	21	25	44	40	35	200
女性	8	5	4	17	21	31	43	86	215

おしか：男性 146名  
 女性 119名  
 合計 265名

サテライト：男性 54名  
 女性 96名  
 合計 150名

男性：200名      女性：215名

**(2) その他事業**

**ア グループホーム等への訪問看護：1施設と契約**

認知症の方の症状が重度化し終末期を迎えても、住みなれた環境であるグループホームの中で、最後まで生活が継続できるように支援した。グループホームとの委託契約により、グループホームに週1回程度訪問し、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談に対応した。

入所者の状態変化あり、個人に訪問が必要となった為、主治医と連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等通常の訪問看護を行った。

**イ 自宅療養を行う新型コロナウイルス感染症患者及び同居する濃厚接触者の看護師による積極的健康フォローアップ事業**

静岡市保健所からの依頼で「自宅療養を行う新型コロナウイルス感染症患者及び同居する濃厚接触者の看護師による積極的健康フォローアップ事業」の委託あり。自宅療養者8名に対し電話訪問を行い、フォローアップした。